

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		重症児デイサービスデイサービス とくとくとく			公表日 2026年 3月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		基本的にマンツーマンで支援が出来るようにしている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		集団活動を行う以外では一人一人空間を分けて過ごせる環境としている。また段差は無く手すり・リフト車・バギーといった利用児童の生活に合わせた環境を整えている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日、掃除・アルコール消毒、常時換気を行っており、寒さに備えてホットカーペット等の温器具を準備している。枕・玩具等の直す場所も準備し子どもが自ら玩具を取りに行けるようにしている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		体調不良時や気持ちを落ち着かせながら機能訓練を行う際に使用できる場所として準備している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		月に2回以上のミーティングを行い、課題に対して改善するように努めている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画説明時に意向の確認や行事の要望を確認している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		第2or3週の土曜日にミーティングする時間を作っており職員との意見交換を行っている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	外部評価を必要とする場面は現在出てきていない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		事業所内や外部から講師を呼んでの研修を行っている	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		年度初めに公表している。支援プログラムに関しては療育は療育担当チーム、機能訓練は機能訓練士とて話しながら作成している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		生活支援もしくは機能訓練、そして医療分野において専門的視線で分析して、要望に合わせた計画書を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		第2土曜日にミーティングする時間を作っており職員との意見交換や情報提供を行っている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		ミーティングや個別記録表にて共有して支援を行っている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		AESMシートや発達検査用紙を使用している。また専門的視線からDQやIQを含めながら日々の行動観察の確認を行っている	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		保護者様からAESMを聴取すると共に、体験時に児童の個性・可能性を予想して、専門的視点で支援内容を設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		活動プログラムは療育担当チーム、機能訓練士チームで立案を行っている	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子ども一人一人の能力、個性に応じた方法で、支援・イベントも変化を付けながら行っている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別では子ども一人一人に合わせて活動を行っている。集団では合理的配慮や環境に合わせて全体で行える朝の会等の活動を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		当日の予定は掲示して誰が誰の支援をするか役割分担等の見える化を図っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には打ち合わせを行っていない	月に行っているミーティングで情報共有している
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		議事録、申し送り表に毎日記載している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		子どもの状態(手術後や医療ケア児)に合わせて計画の見直しをしている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ご家族の要望や子どもの状態に合わせて複数組み合わせ支援を行っている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子ども達が自ら選択を行ったり、待つや表現するといった療育を行っている。自己表現が苦手や難しいお子さんに関しては自己表現が出来るような促しを行っている	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には良く理解している職員が会議に参加している	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		子どもの健康に関して主治医やソーシャルワークと連携している。環境の変化に関して障害福祉課や教育委員会に連携を図り、現状打破を行ったり体制を整えている	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		特別支援学校の先生とは紙面を通して情報共有を行っている。1月から2月にかけて対面で話し合う予定となっている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新規利用が始まる際に他園や他事業所と連携を図って情報共有している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		高校卒業するお子さんに対して就労支援事業所や生活介護事業所と連携している。また利用が決まった事業所から活動内容を確認し事業所の活動を練習し事業所へ入りやすいようにサポートしている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		同じ市のセンターとは連携をとることができていない。食事等の助言が必要な際は、他市のPT(PT)の方へ助言を設けている。また研修がある際は進んで受講している	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		川崎市のイベントにて地域の方に協力して頂いたりして交流を行った。また風船上げのイベントは地域の子どもと一緒にいった	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○			参加まで至っていない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時に伝達を行っている。必要に応じて個別相談も行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者から依頼を受けた時は必ず行っている。また環境が変わる度に相談支援員やご家族と相談し家族支援プログラムへ繋がるように情報提供などを行っている	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ミーティングや個別支援計画説明時にこどもや家族の意向を確認する機会を設けている。職員間では個別記録表等で常に確認しながら支援を行っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画説明時に同意を得ている。繰返し修正が必要な場合は送迎時や郵送にて何回も話し合い保護者からの同意を得ている	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		食事、バギー移動時の姿勢、コミュニケーション、活動内容の話をしており、専門的なバギーや支援を提供している	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		利用のイベントを通して保護者同士の連携や兄弟・姉妹との連携を行った。また必要に応じて保護者同士が連絡できるように仲介役を行った	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		サービス利用時の休憩の過ごし方についての相談有。食後の休憩時間や安全管理について伝達しご理解して頂く	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動概要や行事予定、連絡体制等の情報は事前に連絡して承諾を得て行っている	内容は出来る限り上げられるようにスタッフ同意意識して過ごしている
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報流出を防ぐためのマイでの送受信は控え、一定のメールや直接やりとりを行うように注意している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の方をお呼びしたイベントを多々行った	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員間では全てのマニュアルの周知が出来ている。保護者には緊急時のマニュアルを確認している。救急救命や消防訓練、防犯訓練を行い発生を想定した訓練を実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPは作成済み。防犯訓練など外部からの協力を頂き訓練等を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		新規利用時や服薬内容に変更があった際、退院時等で常に確認できる体制を整えている	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		新規利用時にアレルギーの確認を行っている。必要な方は指示書を主治医に依頼。アレルギー内容が不明な方はアレルギー反応が出そうな活動を行う際は常にご家族へ確認している。ご家族も不明で不安な際は月のイベントや特別なイベントまたは活動を行う際はリスク管理や地域の状況を確認しながら行っている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		外出や活動などを行う際は一つ一つご家族へ確認した後に遂行するようにしている	安全計画に基づく取組内容については屋外遊具の安全面や場所の状況等の詳細までは伝達することができていない
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットと事故報告書を作成。スタッフ全員で共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		最低でも年に1回の虐待研修を行っている。不安要素がある際は嘱託医や市役所へ確認し他機関と連携を図り経過観察を行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束といった目的では行っていない。日常生活の延長で必要に応じてバギー座位でのパットをしている		